

UDF 自主規格第4版出来

ユニバーサルデザインフード（UDF）は、本会が「UDF 自主規格」に定義した民間の規格ですが、本会の会員企業がこの自主規格を遵守し、UDFを製造・供給しています。いわば、「自主規格」はUDFの根幹であり、バイブルです。今般、この自主規格を「第4版」へ改訂いたしました。

第1版は平成15（2003）年6月に出版され、UDFを定義した他、表示方法についての基準を記載し、UDF製品を始めて市場に供給するための原点となりました。その後初の改訂版として、第2版を平成23（2011）年6月に出版しました。ここでは、大きな出来事として「特別用途食品」制度の改正が背景にありました。第1版では、UDF試験方法の定義を「厚生労働省特別用途食品 高齢者用食品の試験方法に準拠」として記載していましたが、この「高齢者用食品」の許可基準が廃止（平成21（2009）年4月）になったことを受け、UDF独自の製品試験方法を検討の上、自主規格化しました。このほかにも、「とろみ調整食品のとろみ表現に関する自主基準」を新たに制定しました。このとろみ表現については、「フレンチドレッシング状」、「ケチャップ状」など現在ではおなじみの表現として定着しています。さらに、UDF容器包装の規格として、「開封口識別マーク」を追加しました。これは、開封口を目立たせるという、容器のユニバーサルデザイン性に配慮した表示の試みであり、これも現在では市販用の多くの製品で採用されています。

第3版（平成28（2016）年12月）では、農林水産省が定義したスマイルケア食の番号表示に配慮した表示が必要となったことが、改訂の大きな要因でした。これまで、UDF区分は「区分1容易にかめる」のように番号とともに表示してきましたが、スマイルケア食との番号順が逆進となったことから、利用者への安全と理解に配慮して、UDFから区分番号を削除する決断をしました。この他にも、容器の表示事項として成型容器の開封口表示を、とろみ調整食品の注意喚起表示アイコン（粉のまま口に入れない）の表示基準をそれぞれ追加しています。

第4版では、「UDF 拡張規格」をガイドラインから自主規格に加えることを改訂の大きな趣旨とし

した（令和2（2020）年12月号の本記事をご覧ください）。第1版以来、新たにUDF規格を追加することで、本件は本会史上でも非常に大きな出来事です。この規格の製品への活用が増えることで、今後の介護食品のイメージがまた大きく変わると考えられます。この他、アレルギー原因食品や、やけどなどへの注意喚起ピクトグラムを整備し新たに加えました。

本会では、UDFを利用される多くの方々に、より安心して食事を楽しんでいただけるよう、今後も研鑽を重ねていく所存です。

【会議、催事等の予定】

- 11月7日（月） 第41回新宿食支援研究会 WG
- 11月9日（水） 第4回技術委員会
- 11月25日（金） 訪問看護利用者における食支援及びUDF等介護食に関する意識・実態調査報告会

【UDF 商品登録状況（2,212品目・9月末現在）】

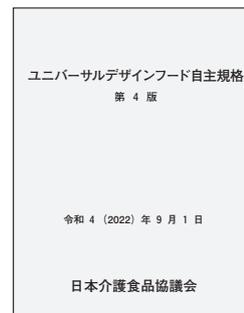
	区分1	区分2	区分3	区分4	とろみ調整	拡張	合計
乾燥食品	0	11	8	4	92	4	119
冷凍食品	321	258	799	21	0	0	1,399
常温食品	240	74	217	161	2	0	694
合計	561	343	1,024	186	94	4	2,212

【会員の異動（9月）】

計90社（9月末現在）。

◎日本介護食品協議会では会員企業を募集しています。協議会とユニバーサルデザインフードについては事務局までご連絡ください。

事務局：東京都千代田区神田東松下町10-2
翔和神田ビル3階
TEL 03-5256-4804
FAX 03-5256-4805
<https://www.udf.jp/>



ユニバーサルデザイン
フード自主規格第4版